

CSR REPORT

TOYAMA KANKYO SEIBI Co., Ltd.

2022



GREEN PRINTING JFPI
F-B10075

この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で作られています。



株式会社富山環境整備

contents

001	目次 会社概要 編集方針	013	KPI
002	トップメッセージ	015	環境 Environment
003	創業 50 周年を迎えて	019	社会 Social
005	事業内容 廃棄物処理事業	023	ガバナンス Governance
007	事業内容 リサイクルプロダクト	027	マテリアルバランス
009	事業内容 アグリプロダクト	029	経営理念
011	CSR方針	030	ビジョン



50年分の感謝を抱き 次の50年へ

株式会社富山環境整備
代表取締役 松浦英樹

TOP MESSAGE

会社概要

[商号] 株式会社富山環境整備

[代表者] 松浦英樹

[設立] 1972年

[資本金] 2,000万円

[従業員数] 364名（2023年4月現在）

[関連会社] 株式会社スマートフォレスト
株式会社万榮
株式会社西田鉄工
株式会社クア・ソリューション
NPO 法人安全企画センター

[所在地]

本社 | 富山県富山市婦中町吉谷 3-3

吉谷事業所 | 富山県富山市婦中町吉谷 3-3

エコタウン事業所 | 富山県富山市松浦町 8-10

富山支店 | 富山県富山市金屋 3783-8

金沢営業所 | 石川県金沢市木越町ホ-68

東京支店 | 東京都品川区南大井 5-22-12

下吉川事業所 | 富山県富山市婦中町下吉川 517

池多事業所 | 富山県富山市池多 1831-1

不二越東富山事業所 | 富山県富山市米田 10

編集方針

[報告対象組織]

株式会社富山環境整備

[報告対象期間]

2021年11月～2022年10月

(※一部対象期間外を含む)

[発行日]

2023年7月

[参考ガイドライン]

環境報告ガイドライン 2018年版

SDG コンパス

[お問合せ先]

株式会社富山環境整備 担当：総務部 谷口

〒939-2638

富山県富山市婦中町吉谷 3-3

TEL：076-469-5356

FAX：076-469-5635

E-mail：yositani@tko-co.jp

2022年10月、当社は創業50周年を迎えました。半世紀という長きに渡り当社が存在し続けることができたのは、共に励んできた社員、地域の皆様、お客様、協力会社様など、多くの皆様のお力をいただいたおかげです。当社と関わり合いのあるステークホルダーの皆様は心より御礼を申し上げます。

札幌冬季五輪が開催され、沖縄が日本へ返還された1972年、当社は富山県婦中町で産声を上げました。私の父が東京で初めて路面清掃車を目にし、「この仕事を富山でやりたい」と決意したことが、前身であるトヤマロードサービス創業のきっかけでした。1970年に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」が制定されたばかりの頃です。当時はまだ廃棄物処理ができる場所も少なく、実際に清掃事業で発生した廃棄物の処理に私たちが困っていたことが、廃棄物処理事業を構想するきっかけでした。

3名からスタートしたスタッフも、今では364名になりました。あらゆる廃棄物を適正に処理する『廃棄物処理事業』、プラスチックを原料や製品へリサイクルする『リサイクルプロダクト』、トマトや花卉、いちごなどの農作物生産と加工・販売を行う『アグリプロダクト』、そして、未だない資源循環を生み出していく『研究開発』と、多岐にわた

る事業を展開しています。

今回発行するCSRレポートは、これからの切り拓いていく次世代が中心となり制作しました。富山環境整備の過去・現在の学びを深め、輝かしい未来を描きながらCSR方針を定め、今私たちが取り組むべきことをKPI（重要業績評価指標）として掲げました。

目まぐるしい時代の変化はこれからさらに加速していくでしょう。CSRは、そのような時代の流れの中で、社会の期待や要望に応え、より良い社会づくりに貢献していくことでもあると考えます。この考えが礎としてあることで、社会的責任を果たすことができると考えています。

過去があるから、今の私たちが存在する。今の過ごし方で未来が決まる。その責任は今を生きる私たちにあるのです。CSRは、私たちが想い描く未来に近づき、実現可能性を高めるための重要なファクターです。

このCSRレポートを是非ご覧いただき、皆様の忌憚のないご意見をくださいますようお願い申し上げます。ステークホルダーの皆様との対話を大切に、50年分の感謝を抱きながら、次の50年に向けて、富山環境整備は引き続き邁進して参ります。



創業 50 周年を迎えて

1972 年（昭和 47 年）、路面清掃事業からスタートした富山環境整備は、2022 年（令和 4 年）に創業 50 周年を迎えることができました。当社に関わってくださる多くのステークホルダーの方々に、心より御礼申し上げます。

これからも地域と共に歩み続け、より豊かで持続可能な社会の実現を目指してまいります。

1972



路面清掃で創業

重機を運ぶトレーラーの長距離運転手だった初代社長の松浦壽一が創業。きっかけは、東京で初めて目にした「路面清掃車」だった。「こんな車、初めて見た。この仕事を富山でやりたい」とそう決心した壽一は、代々受け継いできた土地のほとんどを売って高額の路面清掃車とバキュームダンパーを購入。1972 年（昭和 47 年）10 月に婦中町富崎で「トヤマロードサービス」を創業した。

1985

吉谷最終処分場設置

道路清掃を行っている中、廃棄物を適正に処理できる所が少ないことに気づいた壽一は、後に会長となる若松虎次郎と共に埋立最終処分場の開設に進む。構想から 5 年以上の月日をかけて地域の皆様に認めていただき、1985 年（昭和 60 年）11 月に念願の安定型最終処分場（現在の吉谷事業所）が開設した。



2000

リサイクル事業誕生

平成初期になると各種リサイクル法が次々と制定され、世の中はリサイクルの時代へと転換。富山環境整備でも 2000 年（平成 12 年）に容器包装プラスチックの再製品化施設を設置し、リサイクルプロダクト事業が誕生した。



2011

平等最終処分場開発へ

2011 年（平成 23 年）から、平等地区に新たな最終処分場開発に向けて、集落での説明会を開催。「公害や二次災害が出ないよう徹底して管理すること」と「これからは地域住民とともに歩み、会社ができることはすべて力を貸す」と約束した。その宣言が地域の人々にもつながり、2013 年（平成 25 年）に設置が認められることになった。



2008

発電併用焼却施設の完成

最終処分場の拡張を進めても予想をはるかに上回るスピードで埋立が進む日々が続いた。「リサイクルも重要だが、廃棄物の最大の減容化は焼却しかない」と考え、2008 年（平成 20 年）11 月、ロータリーキルン炉を備えた第一発電併用焼却施設が完成した。



2015

次世代型スマートアグリ始動

富山環境整備だからこそできる農業の形として企画構想したハウス栽培が農林水産省「次世代施設園芸加速化支援事業」に選ばれた。廃棄物由来のエネルギーを使用したハウス栽培は採択された 10 拠点の中でも富山県拠点のみで、発電併用焼却施設を持っていることが高く評価されたのだ。2015 年（平成 27 年）6 月、「富山スマートアグリ次世代施設園芸拠点」を竣工し、アグリ事業が本格稼働した。



2020

地域と一体で発展する未来構想

2020 年（令和 2 年）、「廃棄物処理を軸とした地域循環共生圏モデル構想」を完成させた。廃棄物処理やリサイクル、発電、農業、里山再生といった複数の事業が地域の中で連関・循環することで、富山環境整備が地域と一体となって継続的に発展していくモデルである。この構想は、時代に合わせてさらに高度化、拡大していくビジョンである。

'72

- 1972 トヤマロードサービス個人創業
- 1973 有限会社富山環境整備へ社名変更
- 1974 産業廃棄物収集運搬業許可取得（富山県）
- 1975 本社移転（現富山支店）
- 1979 資本金増資（1000万円）

'80

- 1980 本社社屋完成
- 1985 産業廃棄物最終処分場設置（安定型最終処分場）
- 1988 株式会社富山環境整備へ組織変更
- 1989 産業廃棄物収集運搬業許可取得（石川県）

'90

- 1992 産業廃棄物最終処分場設置（第 1 期処分場）
- 1993 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可取得（富山県）
- 1995 一般廃棄物処理施設設置（圧縮・減容）
- 1996 産業廃棄物処分施設設置（圧縮・減容）
- 1998 産業廃棄物収集運搬業許可取得（新潟県）
- 1999 産業廃棄物中間処理業許可取得（富山県現富山市）

'00

- 2000 一般廃棄物処理施設設置（圧縮・結束）
- 2001 産業廃棄物収集運搬業許可取得（岐阜県）
- 2002 汚泥・残土再資源化施設設置（選別・分級・脱水）
- 2004 容器包装プラスチックの再製品化施設設置
- 2004 一般廃棄物処理施設設置（圧縮・結束）
- 2004 環境事業部「リバース工場」以降範囲拡大更新取得
- 2004 資本金増資（2000万円）
- 2002 産業廃棄物最終処分場設置（第 3 期管理型処分場）
- 2002 ビニールハウスでイチゴ栽培開始
- 2001 産業廃棄物処分施設設置（破碎・洗浄/破碎・圧縮）
- 2001 産業廃棄物処分施設設置（圧縮・減容「ラージベール」）
- 2001 一般廃棄物処理施設設置（再材料化）
- 2001 産業廃棄物収集運搬業許可取得（岐阜県）
- 2000 汚泥・残土再資源化施設設置（選別・分級・脱水）
- 2000 容器包装プラスチックの再製品化施設設置

'10

- 2010 汚染土壌処理業許可取得
- 2011 自動車リサイクル法施設認定取得
- 2010 本社登記変更（富山市婦中町吉谷）
- 2009 代表取締役社長に松浦英樹就任
- 2009 産業廃棄物処分施設設置（第一発電併用焼却施設）
- 2008 産業廃棄物処分施設設置（キレート処理・吸着処理）
- 2007 産業廃棄物処分施設設置（生物処理・中和）
- 2007 優良性評価制度基準適合（富山市・処分、富山県・収運 / 以降他許可でも取得）
- 2006 エコスタッフ・ジャパン株式会社認定
- 2006 ISO14001:2004 認証取得（吉谷事業所・建設事業部・富山西営業所 / 以降範囲拡大更新取得）
- 2005 富山西営業所開設
- 2013 低濃度 PCB 廃棄物無害化処理大臣認定取得
- 2013 微量 PCB 汚染廃電気機器無害化処理大臣認定取得
- 2012 下吉川事業所・池多事業所開設
- 2012 産業廃棄物収集運搬業許可取得（長野県、新潟県）
- 2011 計量証明事業登録
- 2010 自動車リサイクル法施設認定取得
- 2010 汚染土壌処理業許可取得

'20

- 2019 農産物加工施設設立
- 2019 エコタウン事業所開設
- 2018 産業廃棄物処分施設設置（第二発電併用焼却施設）
- 2018 「BREAD」開業
- 2018 低濃度 PCB 廃棄物無害化処理大臣認定取得
- 2017 産業廃棄物収集運搬業許可取得（富山市）
- 2016 研究開発事業開始
- 2015 富山スマートアグリ次世代施設園芸拠点竣工
- 2014 微量 PCB を含む低濃度 PCB 廃棄物無害化処理大臣認定取得
- 2013 東京支店開設
- 2022 創業 50 周年
- 2022 低濃度 PCB 廃棄物無害化処理大臣認定取得
- 2021 高度選別センター設置



廃棄物処理

収集運搬から中間処理、最終処分まで信頼の一括管理システム

収集・運搬

様々な性状の廃棄物に合わせた多様な車両を保有し、安全・適正かつ迅速な収集・運搬を行っています。また、低濃度PCB廃棄物の広域認定を受けており、全国エリアでの収集・運搬に対応しています。



対応エリア

産業廃棄物	富山県 / 石川県 / 岐阜県 / 新潟県 / 福井県 / 長野県
特別管理産業廃棄物	富山県
一般廃棄物	富山市 / 射水市 / 砺波市 / 立山町

保有車種 計50台

ユニック車 / ダンプ車 / アームロール車 / ヒアブ車
ローリー車 / ブロー車 / パッカー車 / バン車
ウイング車 / 低床車

高度選別

搬入された廃棄物には様々な素材が存在しています。最適な選別技術の組み合わせで素材ごとに選別を行うことで、最後のひとかけらまで資源として有効活用し、再資源化と埋立処分場の延命化を図ります。



Point 1

近赤外線アナライザーで素材組成識別

コンベアラインで通過する廃棄物の素材を検知し、素材ごとの通過量や予想熱量、塩素含有レベル、水分率等をデータとして取得することができます。



Point 2

光学式選別で高品質な素材選別

アナライザーで検知・取得した廃棄物データに基づき、最適な条件を設定し光学式選別を行うことで、徹底的に資源を取り出していきます。



焼却

2つの発電併用の焼却施設で、処理時に得られた廃熱を利用し、最大5200kWの発電を行います。焼却をすることで減容化した廃棄物は、同一敷地内の最終処分場で埋立処理します。



第一発電併用焼却施設

可燃物のほか、含水率の高い汚泥なども混合した焼却処理が可能。自動倉庫を併設しており、医療系廃棄物も安全に焼却炉に投入して処理します。

処理能力：144t/日(24時間)
発電能力：1500kW

ロータリーキルン炉



第二発電併用焼却施設

大きな投入口により、破碎・選別などの前処理が不要。乾溜ガス化炉と燃焼炉が分離しているため、ばいじんを抑え高い燃焼効率を確保しています。

処理能力：140t/日(24時間)
発電能力：3700kW

乾溜ガス化炉



低濃度PCB廃棄物無害化処理

第一発電併用焼却施設は、低濃度PCB廃棄物の無害化処理施設として環境大臣より認定を受けています。大型筐体から濃度が高めのものまで、幅広く処理に対応できます。



処理可能品目

廃PCB等	微量PCB汚染絶縁油、低濃度PCB含有廃油
PCB汚染物	PCBが染み込んだ・塗布された・付着した物、トランス、コンデンサ、照明安定器、ウエス、養生シート、サンプルキットなど
PCB処理物	廃PCB等またはPCB汚染物を処理するために処理したもの

処理能力	廃PCB等	低濃度PCB汚染物		低濃度PCB処理物
		PCB濃度0.5超～5千mg/kg以下	PCB濃度5千超～10万mg/kg以下	
ロータリーキルン炉	14.4kL/日	52.8t/日	18.0t/日	52.8t/日
固定床炉	-	45.84t/日	-	45.84t/日

最終処分

資源活用が困難な廃棄物は、管理型最終処分場で埋立処分を行います。併設している水処理施設や分析センターでの安心・安全な管理体制も完備。今後も必要な埋立地を確保しながら安定的な処理を目指します。



処理能力

埋立面積	231,300㎡
埋立容積	8,973,520㎡

埋立標準構造

即日覆土・サンドイッチ工法

覆土層
廃棄物層
覆土層
廃棄物層
覆土層
廃棄物層
覆土層
廃棄物層
保護土

遮水工

保護土
保護マット
遮水シート
保護マット
遮水シート
保護マット
遮水シート
保護マット
基礎地盤

Topics

【開発中】新規最終処分場



吉谷事業所隣地に、新しい管理型最終処分場の設置に向けて開発を進めています。埋立容量は744万㎡で2026年にOPENの予定です。

RECYCLE PRODUCT

リサイクルプロダクト

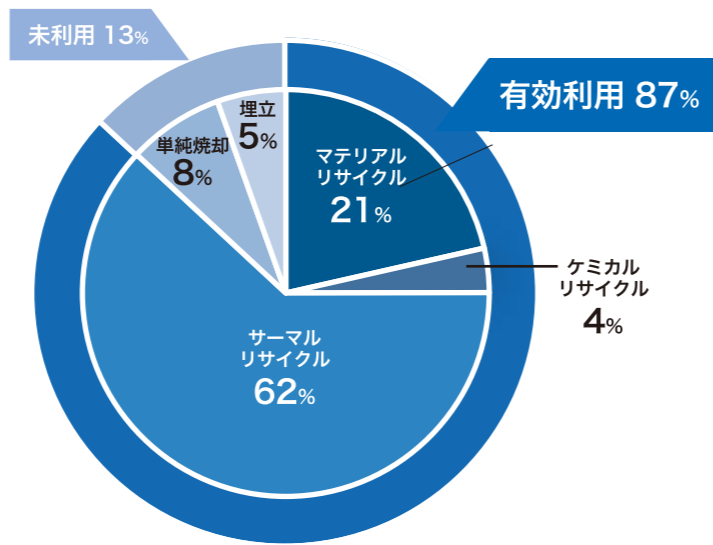
プラスチックの原料化から製品づくりまで
自己完結型のリサイクルシステム

プラスチックリサイクルの重要性

2000年に完全施行した「容器包装リサイクル法」は、ペットボトルや容器包装プラのリサイクルを進めてきましたが、近年の海洋プラスチックごみ問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化などの状況から更なる取組が必要となりました。これを受け、2019年に「プラスチック資源循環戦略」が策定、2022年には「プラスチック資源循環法」が施行し、『3R+Renewable』の基本原則のもと、プラスチックの他素材への転換や使用の合理化、更なるリサイクルが推進されていきます。

また、同時に脱炭素社会の実現も喫緊の課題となっています。単に有効利用量を増やすだけでなく、マテリアルリサイクルやケミカルリサイクルなどの有効利用方法についての要求も高まってきています。

廃プラスチックの有効利用・未利用率



引用元：一般社団法人プラスチック循環利用協会
「2021年プラスチック製品の生産・廃棄再資源化・処理処分の状況」

リサイクル製品

		
<p>リバースペレット</p> <p>精選別したプラスチックを加工し、素材ごとに粒状樹脂にしたものです。計8種類をラインナップしています。</p>	<p>リバースパレット</p> <p>JIS Z0609に適合した、高い品質のリサイクルパレットです。用途に応じた各種サイズを生産しています。</p>	<p>リバースボード</p> <p>プラスチック製の敷板で、約30kgという軽さで60tほどの耐荷重を誇ります。フレキシブルな現場運営をサポートします。</p>

リサイクルフロー

原料化フロー



最新鋭の設備で幾重にも選別を行い、高品質な単一素材を実現

Recycle Material

リサイクル原料



光学式選別



光センサーで塩素系プラスチックを感知し、ピンポイントで空気を当てて吹き飛ばし取り除きます。

比重差選別



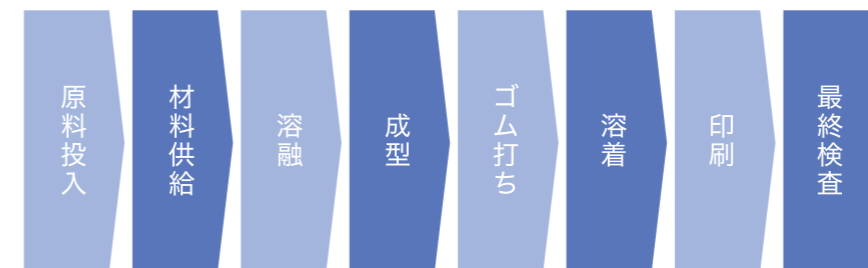
振動と風力を活用し軽いプラスチックと重いプラスチックに分けることで素材選別を行います。

光学式選別



更に光学式選別を数回繰り返すことで、塩素系プラを徹底的に取り除き、PP・PE・PSの単一素材に分けていきます。

製品化フロー



Recycle Product

リサイクル製品



研究開発

2022年4月に「プラスチック資源循環法」が施行となり、プラスチックから他の素材への転換やバイオプラの利用促進などの目標も掲げられました。当社ではリサイクルプラスチックの高品質化・高付加価値化に向けて、産官学と連携して取り組んでいます。



研究事例

革新的プラスチック資源循環プロセス技術開発

ナノナノ複合体 (CNFとプラスチック) の活用による農業生産性向上

施設を活用したプラスチック選別実証



次世代施設園芸

安定的に供給される廃棄物発電と廃熱を利活用し、米作中心地帯での大規模施設園芸のモデル的導入を行っています。



栽培品目：作付面積	フルーツマト：2.8ha 花卉（トルコキキョウ）：1.2ha
区分	事業実施概要
拠点整備	① 温室及び冷暖房設備：28棟（4ha） ② 種苗供給施設：2棟 ③ 出荷調整施設（集荷場）：1棟 ④ 廃棄物由来の固形燃料を利用したボイラー（発電併用焼却施設）からの熱供給システム
技術実証	① ICT等を活用した高度環境制御システムの導入実証 ② データ化によるナレッジ共有のためにウェアラブル端末等を活用実証
その他取組	① 障がい者雇用や福祉への貢献 ② 海外人材の雇用

農林水産省平成26年度(平成25年度補正)次世代施設園芸加速化支援事業

栽培品目



フォレストフルティカ

甘みと酸味のバランスがよく、苦手な方でもこれなら食べられると評判のフルーツマトです。高度環境制御技術法を取り入れることで、周年栽培を可能にしています。



トルコキキョウ

花びらがフリンジでボリュームがあり、豪華な花形が魅力です。色や花形のバリエーションが豊富で、年間約20種類を栽培しており、ギフトや冠婚葬祭で利用されています。



よつぼし

円すい形で光沢のある鮮やかな赤色と豊かな香りが特徴です。豊富なミネラル水と肥料を使うことで、良質ないちご栽培に取り組んでいます。

出荷・加工・販売施設

栽培した農作物は同一敷地内の施設で出荷準備を行います。また、規格外品の加工施設やトマトやイチゴを使った製品の販売施設もあり、6次化の取り組みを行っています。



出荷施設

収穫したトマトのサイズや糖度計測等を行い、基準をクリアしたものをパック詰めする「選果室」、お花の長さ等を調整・出荷準備する「花卉調整室」があります。



加工施設

傷やサイズ違いなど規格外となったトマトを冷凍保存し、ピューレー等に加工する施設です。洗浄・冷凍・加工室を完備。製品検査を経て安心安全な製品をお届けします。



販売施設「&BREAD」

自社農作物を使ったパンやお弁当の製造・販売を行っています。本社から車で約15分の下吉川地区に店舗があり、移動販売車での出張販売も行っています。

農業による地域振興

2021年より吉谷事業所周辺地域の皆様と共に、稲作や露地野菜の栽培などに取り組んでいます。過疎化や高齢化による耕作放棄地などの地域課題を解決し、より魅力のある地域づくりに貢献していきます。



稲作



露地野菜



その他

作物を育てるだけでなく、定期的な草刈り等による農地管理も行っています。また、新たな農地の活用方法の模索も進めており、2022年度からはバイオマス発電の燃料として期待される早生樹などの地域資源作物栽培に向けた実証もスタートしています。

CSR方針

事業活動に伴い発生するあらゆる影響に対して責任を持ち、ステークホルダーとの関係を重視しながらその影響に対応していくことがCSR（企業の社会的責任）だと捉えています。
 当社のビジネス環境を様々な側面から分析し、課題を特定した上でCSR方針を策定しています。

CSR方針策定プロセス

Step1 自社分析

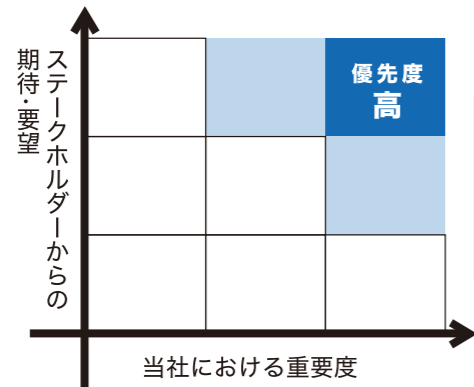


当社のビジネス環境を踏まえた上で、自社のステークホルダーからの期待やリスクを考える「ステークホルダー分析」、組織活動が周囲にどんな影響を与えるかの「影響分析」を実施しました。

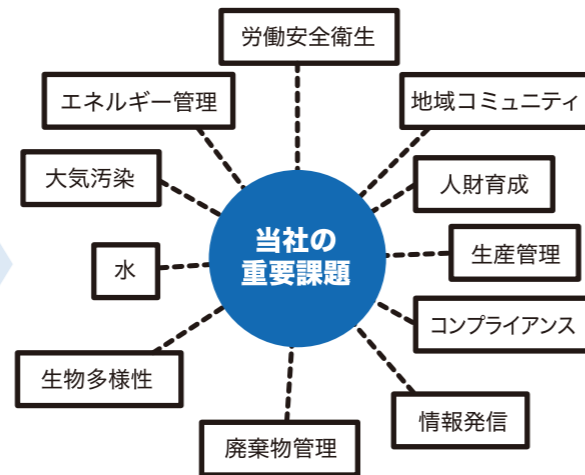
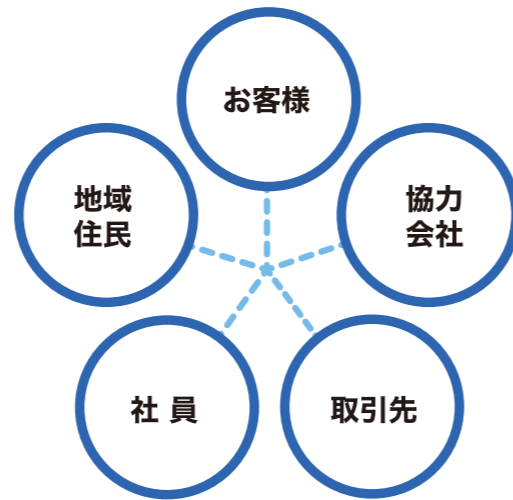
重要課題の特定



経済・環境・社会の3つの側面から自社に関連のある社会課題を洗い出し、ステークホルダーからの期待・要望を加味して、特に自社と関連の深い重要課題を特定していきました。



当社の重要なステークホルダー



Step3 CSR 方針の見直し



特定した重要課題の解決にむけて、CSRの進む方向を示す「CSR方針」が適切か、現在定めている方針の見直しを図りました。

Step4 KPI・CSR 活動の決定



CSR方針に掲げている方向に進んでいるか、重要課題解決に近づいているか、その成果を図る指標 (KPI) と、具体的な取組み内容を決めていきました。

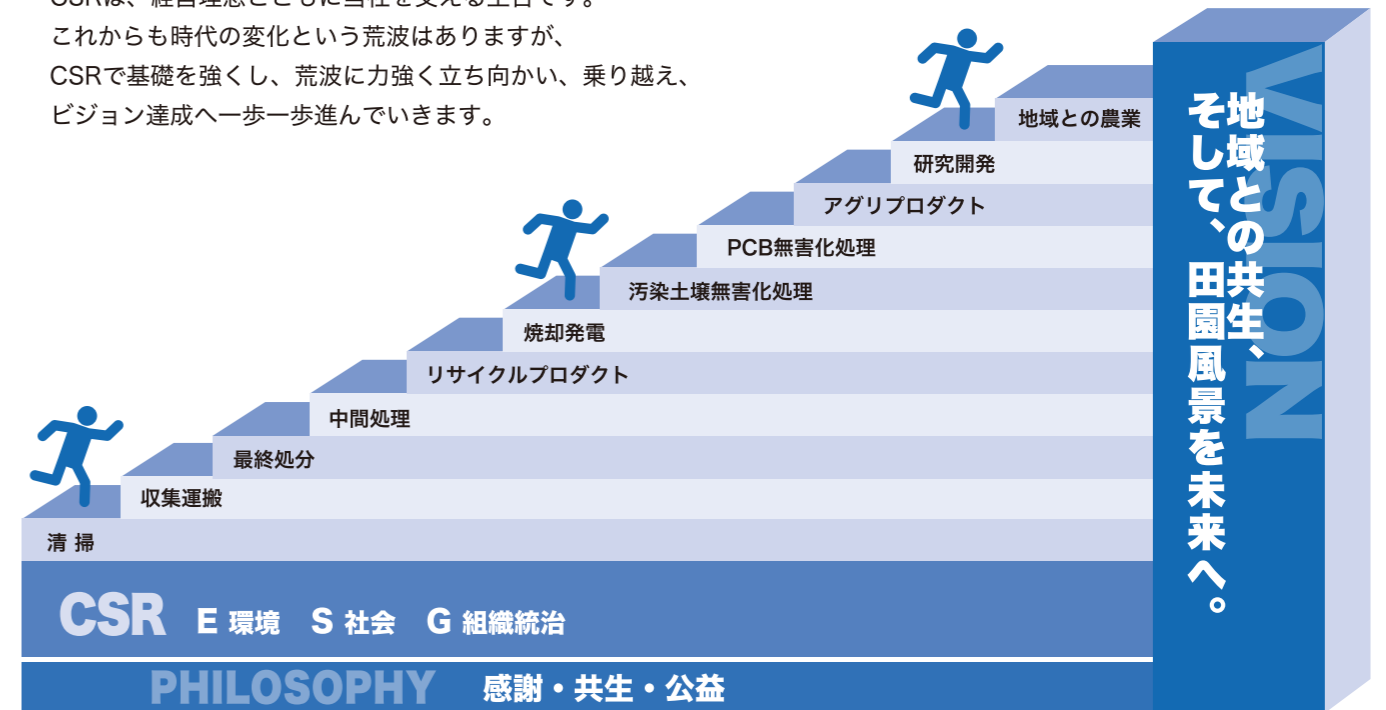
Step5 マネジメント体制整備



KPI達成に向けたPDCAサイクルを構築し、計画・運用・確認・改善が図れるよう、社内体制を整備しました。

富山環境整備のCSR

地域との共生、そして田園風景を未来へ。
 このビジョンのもと、富山環境整備は「廃棄物」を軸に、社会課題の解決に向けた事業展開を図ってきました。
 CSRは、経営理念とともに当社を支える土台です。
 これからも時代の変化という荒波はありますが、CSRで基礎を強くし、荒波に力強く立ち向かい、乗り越え、ビジョン達成へ一歩一歩進んでいきます。



環境に配慮した事業運営と廃棄物の適正処理・リサイクルを推進します。

[重要課題] 大気汚染、エネルギー管理、水、生物多様性、廃棄物管理



安全を最優先し、様々なステークホルダーの“安心”を創造します。

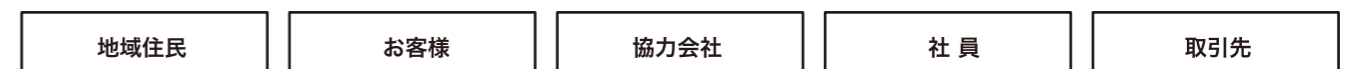
[重要課題] 労働安全衛生、地域コミュニティ、人財育成



目まぐるしく変化する社会に適応した持続可能な組織を目指します。

[重要課題] コンプライアンス、生産管理、情報発信

ステークホルダー



重要課題	関連するSDGs	守る/伸ばすCSR	KPI	目標値			対象範囲	具体的活動内容
				2022年度51期	2023年度52期	2024年度53期		
大気汚染	13 気候変動 15 陸域生態系保護	守る	環境基準値(排水/排ガス/騒音/振動)	基準値以下	基準値以下	基準値以下	焼却発電最終処分リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ① 周辺地域の環境大気測定の実施 ② 廃棄物焼却炉の大気汚染防止法に係る排ガス測定の実施 ③ 水質汚濁防止法に係る放流水の水質検査実施 ④ 周辺地域の悪臭測定の実施
			埋立施設発生ガス管理	管理方法決定	管理実施・見直し	管理方法改善	最終処分	<ul style="list-style-type: none"> ① 埋立ガスに関する部内勉強会の開催 ② 埋立ガスの成分・濃度分析実施 ③ 分析結果に応じた対策の考案・検討・実践 ④ 定期的な埋立ガス管理方法の策定・実践
水 生物多様性	14 海洋資源 15 陸域生態系保護	守る 伸ばす	年間農業 使用量削減	前作比 1回削減	前作比 1回削減	前作比 1回削減	アグリ	<ul style="list-style-type: none"> ① 年間防除計画の立案 ② 薬剤以外での防除試験・導入 ③ ハウス内外の除草実施 ④ ハウス等入室時の衛生対策・入室制限の徹底 ⑤ 調整池の水質調査 ⑥ 農薬適正処理
エネルギー 管理	7 再生可能エネルギー 13 気候変動	守る	事務所 電気使用量	前年比 1%削減	前年比 1%削減	前年比 1%削減	全社	<ul style="list-style-type: none"> ① 休憩時間の照明消灯徹底 ② 未使用会議室の照明消灯・空調使用管理の徹底 ③ 時季に応じた空調適正温度の設定 ④ クールビズ・ウォームビズの実施 ⑤ 高効率照明への更新
			売上当たり 施設電気 使用量	前年比 1%削減	前年比 1%削減	前年比 1%削減	吉谷事業所 エコタウン 事業所	<ul style="list-style-type: none"> ① 不要箇所の照明消灯 ② 設備更新時の省エネ型への移行 ③ 効率の良い工場運営の実施 ④ 高効率照明への更新
	売上あたり 車両燃料 使用量	前年比 1%削減	前年比 1%削減	前年比 1%削減	全社	<ul style="list-style-type: none"> ① 車両更新時の低燃費車導入 ② 急発進・急加速・急ブレーキの禁止 ③ 車両の日常点検実施 ④ 効率的なルート運行 		
	売上あたり 重機燃料 使用量	前年比 1%削減	前年比 1%削減	前年比 1%削減	吉谷事業所 エコタウン 事業所	<ul style="list-style-type: none"> ① 重機更新規定の見直しと再周知 ② 更新時に低燃費重機導入 ③ 作業手順書に基づいた教育による作業レベル標準化 ④ 重機用ドライブレコーダー等の導入検討 		
	焼却施設 発電電力 保持率	60%	65%	70%	焼却発電 最終処分 リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ① 発電電力を保持した運転計画 ② 電力原単位での監視 ③ 発電量の見える化 		
	従業員 1人あたり 年間一般廃棄物 排出量	前年比 1%削減	前年比 1%削減	前年比 1%削減	全社	<ul style="list-style-type: none"> ① 裏紙・使用済みクリアファイルの社内使用 ② 紙ごみ分別ボックスを設置しリサイクルを促進 ③ マイ箸・マイボトルの使用推進 ④ 年2回以上の大掃除にて整理・整頓の実施 ⑤ 備品管理の徹底による無駄な購入の削減 ⑥ 複合機の印刷使用状況の月次管理と社内配信 ⑦ 電子化推進による紙使用量の削減 		
中間処理 受入廃棄物 リサイクル率	前年比 5%向上	前年比 3%向上	前年比 3%向上	全社	<ul style="list-style-type: none"> ① 搬入される混合廃棄物の組成分析 ② マテリアルバランスの管理方法確立 ③ 新規設備によるリサイクル方法拡充 ④ リサイクル判別基準のマニュアル策定&営業トレーニング実施 ⑤ 新規リサイクル手法の研究開発 			

重要課題	関連するSDGs	守る/伸ばすCSR	KPI	目標値			対象範囲	具体的活動内容
				2022年度51期	2023年度52期	2024年度53期		
S 労働 安全衛生	3 気候変動 8 持続可能な消費と生産	守る	労災 発件数	0件	0件	0件	全社	<ul style="list-style-type: none"> ① 安全スローガンを作成し全社掲示・啓発 ② 朝礼時のKYT実施 ③ 定期的なリスクアセスメントの実施 ④ 安全管理体制の確立 ⑤ 定期的な作業手順書の見直しと教育の徹底 ⑥ 溶剤・試薬などのSDS管理と定期教育実施 ⑦ 場内安全パトロールの実施
			地域活動 参加回数	30回 以上	30回 以上	30回 以上	全社	<ul style="list-style-type: none"> ① 近隣住民説明会の定期開催 ② 地域清掃・ボランティア活動等への参加 ③ 地域イベント等への参加・協賛 ④ 次世代の環境教育・職場体験の実施
			地域防犯 パトロール活動 延べ参加人数	2200人	2200人	2200人	安全企画 センター	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日地域防犯パトロールを実施 ② 鍵かけ運動の実施 ③ 各地区防犯協会の行事に積極的に参加
G 生産管理	8 持続可能な消費と生産	守る	社員採用 実施	継続実施	継続実施	継続実施	全社	<ul style="list-style-type: none"> ① 年間採用計画の立案・策定 ② 採用活動の活動の実施 ③ 研修マニュアル作成
			業務改善 件数	5件	10件	15件	全社	<ul style="list-style-type: none"> ① 現状業務フローの整理 ② 担当者への課題ヒアリング ③ 業務改善箇所の検討・協議 ④ 業務改善実施と改善業務フローの策定
	12 持続可能な消費と生産	伸ばす	年間製品率	前期比 製品率 2%向上	前期比 製品率 2%向上	前期比 製品率 1%向上	アグリ	<ul style="list-style-type: none"> ① 製品率結果に対する原因追及 ② 栽培面積に対する栽培適正数試算 ③ 栽培方法・資材・コストの検討と試験実施 ④ 栽培方法・病害虫予防等管理方法の確立・統一化 ⑤ 規格外品の加工企画・販売 ⑥ 生産担当・営業担当など事業部内連携強化
			プラリサイクル 計画稼働率	90%	90%	90%	リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ① リサイクル品質の維持 ② 稼働計画の策定とコミット ③ 品質・稼働を維持するための保全
			リサイクル 普及活動件数	20件/年 以上	20件/年 以上	20件/年 以上	全社	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設見学会の実施 ② 講演会の講師登壇、情報誌への寄稿 ③ 展示会の出展
			社内規範 再整備	現状把握、 調整	社内規範 の再策定	社内規範 周知徹底	全社	<ul style="list-style-type: none"> ① 法改正の情報収集と社内周知 ② コンプライアンス規定の策定・見直し ③ 助成金運用ルール策定 ④ 定期教育の実施 ⑤ 機密保持契約・知財のリスト化と更新管理
9 持続可能な消費と生産 8 持続可能な消費と生産	伸ばす	年間情報 発信件数	15回	20回	25回	全社	<ul style="list-style-type: none"> ① 社内情報の収集管理 ② Webサイト記事の執筆・掲載 ③ 社内報の作成・発行 ④ 外部メディアへの掲載 	

ENVIRONMENT 環境

環境に配慮した事業運営と 廃棄物の適正処理・リサイクルを推進します。

当社は廃棄物処理を基軸とした事業運営を行っており、多様な中間処理施設と最終処分場を保有しています。環境に配慮し自然環境と調和した事業運営は、私たちのミッションであり未来への責任です。また、一度社会で活躍した廃棄物は、処理会社である私たちの技術や経験を用いることにより、再び社会で活躍できる命を吹き込むことができます。最適な事業運営と適正処理・リサイクルをステークホルダーと協働し、環境との共生を実現します。



1 富山環境整備の環境マネジメント

2005年よりISO14001の認証を取得しており、環境マネジメントを実施しております。

2017年からはISO9001と統合したマニュアルを整備し、品質管理・環境管理が一体となったマネジメントに進化しました。本社・吉谷事業所内の廃棄物事業・リサイクルプロダクト事業にて環境影響を特定し、KPI・事業計画書・作業手順書等に活動を反映させて運用を行っています。

当社の廃棄物処理事業は、常に環境影響に配慮した運営が必要です。社員へこの環境マネジメントシステムの周知徹底を図りながら、環境と共生する企業体を目指します。

ISO14001 認証登録範囲

産業廃棄物処分量（中間処理、最終処分）

一般廃棄物処理／一般・産業廃棄物収集運搬業

リサイクル事業（廃プラスチック等の再生原料製造、プラスチック製品製造、固体燃料（RPF等）の製造、汚泥・残土再資源化、木炭・木酢液製造）

計量証明事業／下水道等管渠カメラ調査・補修業務

水路・水槽等清掃業務／道路維持管理作業

河川堤防除草等維持管理作業／建設業

品質・環境方針

株式会社富山環境整備は、事業活動に伴う環境負荷を継続的に低減するとともに、地域社会に必要とされる企業づくりを目指し、地域の環境や社会に対して常に配慮する。また、作業の安全性及び生産性の両立を図りながら顧客の満足する成果とサービスを常に信頼される品質で提供するとともに、求められるニーズに速やかに対処し、教育活動を推進することによって継続的に社会に貢献する。

1. 廃棄物収集運搬業、廃棄物処理業、リサイクル業、製造業などの事業活動に係る環境マネジメントシステムを維持し、継続的改善によって環境負荷を低減し、汚染の予防に積極的に取り組む。
2. 顧客、製品等の要求事項を満足するように運営管理を行うとともに、品質マネジメントシステムの有効性について確認し、継続的に改善を図る。
3. 循環型社会に対応したオリジナルのリサイクルシステムを通して、排出事業者や施設見学者へのリサイクルに関する環境教育を推進することによって地域社会に貢献する。
4. 求められる品質を維持（クレームの低減、不具合の低減など）、事業に伴う環境負荷を低減（省エネ、省資源など）、安全な職場環境を形成（安全パトロール、5S推進、ヒヤリ・ハット・キガカリ活動など）、作業効率を上げるために目的及び目標を設定し、達成状況を確認しながら継続的に改善し、定期的な見直しを行う。
5. 関連する法令、条例・諸規則及び地域の要求事項を順守し、特に、事業活動に伴い発生する排水及び排ガスは維持管理によって適正に処理し、他の環境要素も含めて周辺環境監視を継続する。また、優良産廃処理業者を維持するため、関連する情報公開を推進する。
6. 次世代に対応できる事業を創造し、適応できる必要人材を育成しながら人材を確保する。
7. 品質・環境方針は掲示するとともに、教育や朝礼を通して全社員に周知徹底する。

2018年1月16日
株式会社富山環境整備
代表取締役 松浦 英樹

ENVIRONMENT 環境

2 車両や重機の燃料使用量削減

収集運搬や場内運搬で使用するトラック、各施設で使用する重機など、当社では多くの車両・重機を保有しており、この燃料使用量の削減に力を入れております。

収集運搬車両では、効率的な配車組みや更新時の低燃費基準達成車の導入をおこなっています。また、重機も最新型の車両は燃費も良いため、更新基準を設けて定期的に新しいものに切り替えています。そして、それぞれ運転の仕方が燃費にも影響するため、アイドリングストップなどのエコドライブも推進しています。



3 電気使用量削減に向けて

当社は、工場・施設を中心としたあらゆる設備で電気を使用しており、それぞれのセクションで削減に向けた取り組みを行っております。今後は使用量管理の細分化を行い、分析と改善をさらに図っていきます。

工場・施設

建屋内の照明や街灯などを使用している水銀灯をLED照明へと更新をすすめています。これにより電力使用量を約1/4へ削減できました。現在、全体の約80%のLED化が完了しています。



オフィス

電力使用量が最も多いのは、空調使用によるものです。寒暖差の激しい地域特性がありますが、適切な温度設定での使用を推進しています。また、お昼休みの時は消灯を行い、コソコソと削減に向けてできる活動を継続しています。



4 発電併用焼却施設での創エネ

焼却処理で発生する廃熱を活用し、発電を行っています。2つの焼却施設それぞれに発電設備を設置しており、最大で5200kWもの発電能力を有しております。2021年までの総発電量は約5250万kWhで、吉谷事業所内の電力に活用してきました。

今後は安定した発電を行うことはもちろん、施設運転管理を強化し化石燃料使用量の最適化も図ってまいります。



焼却施設発電量
(2010~2021年)
52,490,639 kWh
3,061 世帯分
(総務省統計及び電気事業連合会データベースより当社試算)

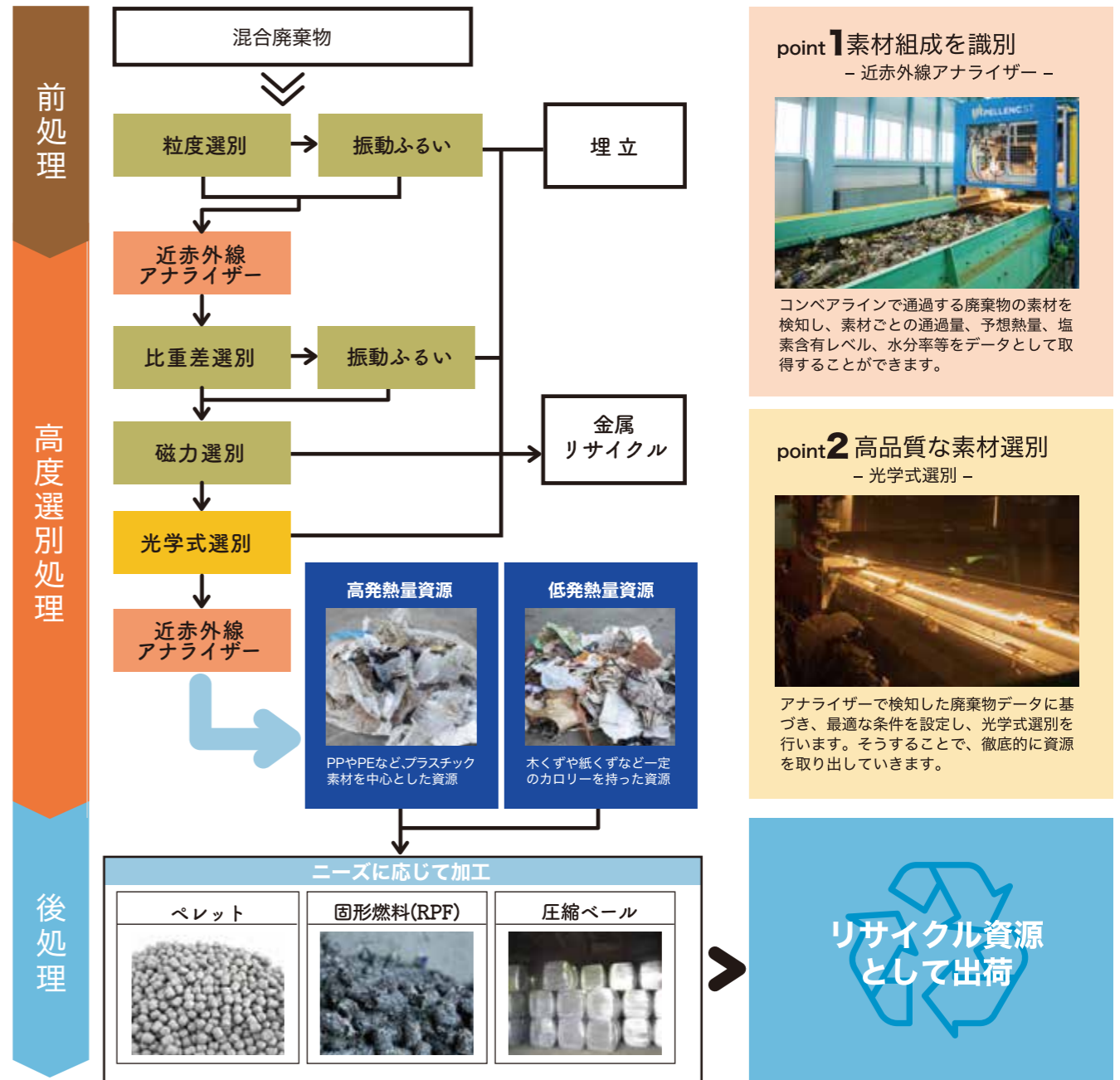
5 最後のひとかけらまで資源として活用する「高度選別センター」OPEN

2021年7月、国内最大級の廃棄物ソーティングセンター「高度選別センター」を開設しました。最後のひとかけらまで資源を徹底的に取り出し、循環型社会の実現に貢献していきます。

高度選別センター 誕生のきっかけ

長年運営している最終処分場ですが、近年では予定年数を超えるスピードで埋立処理が進んでおりました。破碎・圧縮や焼却による減容化を行っているものの、多発する自然災害で発生する災害ごみや、アスベスト関連の法規制等による埋立処理の需要が増えているのも事実です。また、2022年4月には「プラスチック資源循環法」も施行し、リサイクルの重要性もますます高まっています。当社に搬入される

廃棄物の多くが様々な素材が混在している状態である現状を受けて、構想がスタートしたのが「高度選別センター」です。廃棄物の中から徹底的に資源を回収し、再資源化を進めることでリサイクル率を向上し、同時に最終処分場の延命化を最大限はかることを目的としています。いかに選別し、資源を最後のひとかけらまで取り出して活かすかが、今後の未来にかかっているのです。



安全を最優先し、 様々なステークホルダーの“安心”を創造します。

当社の多様な事業は、安全の基礎の上に成り立っております。安全の先に安心できる組織運営とステークホルダーとの信頼が実現できます。地域社会の一員として地域の発展に寄与できる環境もまた同じくです。すべてにおいて安全を最優先した事業運営と、共に働くスタッフの成長、そして地域の皆様との共生を目指してまいります。



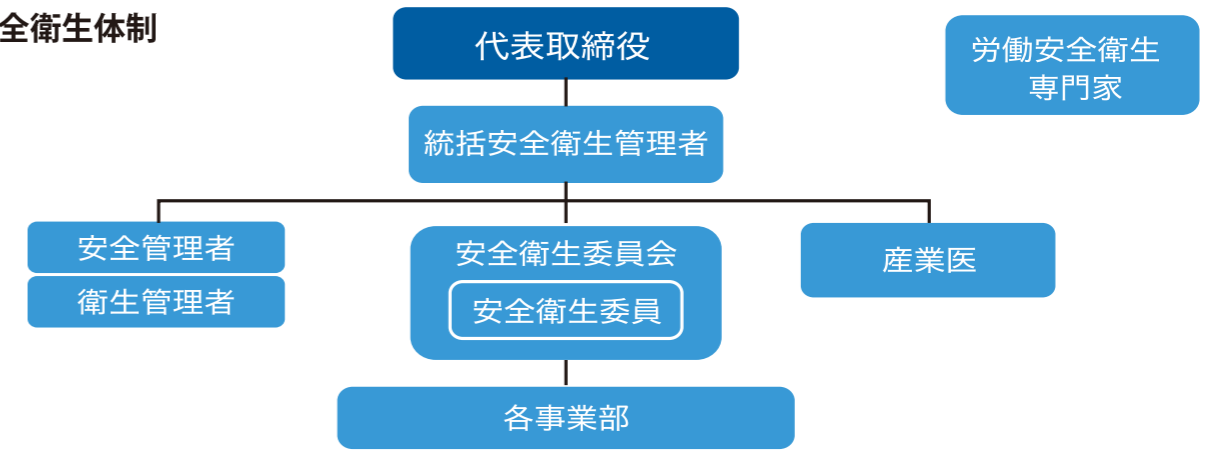
1 労働安全衛生

当社では、全てにおいて安全を最優先した事業運営を行っております。安全衛生規程に基づき設置している安全衛生委員会は、各事業部から選任されたメンバーを中心に構成しており、労働安全衛生に関する情報の共有や協議・審議、災害防止に向けた計画の立案と遂行など、全社的な安全衛生を推進する要の組織になります。毎月会議を行い、協議・決定した事項は速やかに各事業部へ展開しています。また、多様な事業を展開しているため、危険箇所や安全対策も事業によって様々です。安全衛生に関する専門家とのパートナーシップを結んでおり、定期的に指導をいただくことで、高い安全レベルの確保に努めています。安全に終わりはありません。

労働安全衛生スローガン

危ないぞ、言える勇気と聞く心
みんなで作ろうゼロ災職場

労働安全衛生体制



Activity 1

専門家とともに安全衛生活動

各事業において定期的にリスクアセスメントを実施しています。月に1回、対象事業部を設定して安全衛生に関する専門家と共に現場チェックを行い、職場の安全性を評価し、危険箇所はアドバイスをいただきながら対策を検討しています。



Activity 2

安全パトロール

月に1回、対象事業部を定めて安全パトロールを実施し、安全な作業を行っているか、作業場において危険な箇所がないかをチェックしています。パトロール結果は「安全衛生委員会」で共有し、改善事項の確認と協議、実際の改善状況の確認を行います。



2 多様なコンテンツの新入社員研修プログラム

当社の新入社員研修プログラムは、座学研修と業務体験の大きく2つで構成しています。

座学研修は、多岐に渡る事業内容と関連する法令などの専門的な知識や安全に関する事項はもちろん、視野を広く持って自律した人間性を育むことを目的として、個々の特性を認識する研修や写経・座禅研修、フェンシング研修など、多様なテーマのコンテンツを設けています。その後は業務体験として各事業の業務に従事し、本人の希望と適性を考慮した上で正式な配属を決定しています。

当社のことを隅々まで理解し、先輩社員や同期とのコミュニケーションを多く図ることで、早く当社に馴染み活躍できるよう努めています。



SOCIAL 社会

3 環境保全対策協議会の定期開催

当社が最終処分場の運営を開始してから、地元の皆様と共に地域の環境を守っていくために、「環境保全対策協議会」を1996年に設立しました。年に3~4回、地元公民館に集まり、最終処分場の運営状況や今後の事業計画について説明し、意見交換を行っています。また、毎年吉谷事業所にお越しいただき、実際に状況を確認いただいております。

当社が半世紀の間、この地で事業を続けられているのは、関係地域の皆様のご理解・ご協力をいただいているおかげです。これからも地域と共に発展する企業であるべく、密な関係づくりを継続して行っていきます。



4 地域の田園でお米づくり

2021年にスタートしたお米づくりのきっかけは、現在開発を進めている平等最終処分場です。開発にあたり、地元の皆様と対話を進めていく中で「農業も一緒に取り組んでくれないか」という声を多くいただきました。そこで、過疎化や高齢化で耕作が難しくなった農地を借り受ける等して、お米づくりがスタートしたのです。

現在、約5haの圃場でお米を生産しており、田植えや稲刈りなどの繁忙期には、全社的にメンバーが集まり農作業を行います。そうして秋に収穫したお米は、社員や地域の皆様をはじめ広く販売しています。

今後はお米に限らず新しい農業の可能性を追求して、農業による地域との共存・共栄を目指してまいります。



5 地域の防犯パトロール (NPO 法人 安全企画センター)

当社の関連団体であるNPO法人 安全企画センターは、「住みよい社会環境を整備し、地域社会に貢献する」ことをモットーに、2004年に設立しました。

合計4台ある青色回転灯を装備したパトロールカーで、富山市内を中心に防犯パトロールを行っています。平日の登下校時間を中心に行い、学生の見守り活動や並行して道路のゴミ拾いを行っています。

また、毎年6月と11月には富山西警察署等と協働し、カギかけ啓発キャンペーンを行っており、センターでの出発式や市内ショッピングセンターでのチラシ配布等を行っています。



6 富山スポーツのパートナー

サッカーチーム「カタレ富山」のオフィシャルパートナーとして長年スポンサードを行っています。より市民の皆様にはカタレ富山を知っていただきたい思いから、一般廃棄物を回収するごみ収集車にもラッピングしています。

また、2020年4月からは、富山市出身の車いすフェンシング選手、河合 紫乃（かわい しの）さんが当社に所属し選手活動を行っています。現在は、2024年のパリ・パラリンピックへの出場を目指して日々鍛錬を積み重ねているところです。

スポーツを通じて富山県が活性化されるよう、今後も応援していきます。



7 地域の施設や学校へ農作物を寄贈

2020年より猛威をふるった新型コロナウイルスにより普段とは異なる日常生活を余儀なくされる中、地域の皆様に少しでも元気になるってほしいという思いから、当社で生産したトマトやお米を富山県内の社会福祉施設や学校、子ども食堂などへ寄贈をしました。寄贈したトマトは約1000kgで、富山県社会福祉法人経営者協議会を通じて69の施設に届けられました。また、富山市内や高岡市内の学校給食でも提供され、焼却時の熱や電気エネルギーを活用した循環型農業で生産されたこともお話しさせていただきました。皆様からはトマトを食べている様子の写真や感想のお手紙をいただき、「おいしかった」の言葉に私たちが元気づけられました。



8 社会科見学等の受け入れ

当社の廃棄物処理やりサイクル、アグリプロダクトの活動をお伝えする、社会科見学等の受け入れを行っています。

2022年度は、コロナの影響で例年より少ないですが合計75件・962名の方に見学に来ていただきました。作業現場やコロナ禍での安全性を考え、動画での事業説明コンテンツも整備しており、現地の事業スケール感と仕組みも含めてご理解いただけるように努めています。

当社の事業を通じて、環境のことを少しでも考えていただくきっかけになればとの思いで、今後も積極的に受け入れを実施してまいります。



GOVERNANCE ガバナンス

目まぐるしく変化する社会に適応した
持続可能な組織を目指します。

安定した品質のサービスや製品を通じて当社の価値へ提供していくためには、広義のコンプライアンス確保と当社ならではのマネジメントシステムの確立が重要です。また、社会の要求の変化に合わせた当社の運営状況など、コミュニケーションも更に密に行う必要があります。

当社の「今」を積極的に発信し、ステークホルダーとのコミュニケーションに繋げ、その声を反映するマネジメントシステムを運用し、時代に合わせた持続可能な組織を実現していきます。



1 富山環境整備の品質マネジメント

当社が製造・提供する商品・サービスにおいて、お客様に安心してご利用いただける品質を確保していくために、規格に基づいた品質マネジメントを行っています。

廃棄物処理・リサイクルプロダクトではISO9001（品質マネジメントシステム）認証を取得しており、環境マネジメントシステムの規格であるISO14001と統合した独自のマニュアルを制定し、環境と品質が一体となった運用を行っています。また、アグリプロダクトでは、農場生産の基準であるGLOBAL G.A.P.に基づいた品質マネジメントシステムを確立しています。

現状の商品・サービスに満足することなく、よりお客様や社会に価値が提供できるようシステム運用を継続して参ります。



ISO9001 認証

廃棄物収集運搬、道路・事業所清掃、リサイクルプロダクトの事業においてISO9001認証を取得しています。

商品・サービスの提供において安定した品質確保ができるよう、業務フローや作業手順、商品・品質管理項目を定義しています。品質向上に関する目標を各事業部の計画と連動させた上で設計・製造・サービス実施を行っています。また、お客様の声を商品・サービスに反映していくために、顧客アンケート等も実施し改善を行っています。このPDCAサイクルで、よりよい品質の商品・サービスを提供していきます。

Activity 1

設備管理

様々な設備を用いて商品・サービスを提供しており、設備管理が品質に大きく関わってきます。吉谷事業所内の各工場では、定期的にメンテナンス日を設けて設備の点検・修繕を行っています。メンテナンス頻度を上げることで安定した品質と設備稼働を実現しています。



GLOBAL G.A.P. 認証

アグリプロダクト事業の主力商品であるトマトの生産において、持続的な生産活動を実践する優良企業に与えられる世界共通のブランド「GLOBAL G.A.P. 認証」を取得しています。圃場管理や育苗～出荷までの各工程については、衛生面や安全面などに関わるあらゆるリスクを評価し、品質を確保・維持できるよう手順を文書化してスタッフへの教育を行うことで、生産活動の基礎を固めています。また、お客様から頂いた声を品質改善に反映していくステップも定めております。GLOBAL G.A.P.認証は世界基準の認証です。今後も生産に関わる様々な側面を管理し、環境との調和・安全・品質を確保していきます。

登録範囲

建設・車両部門、リバース製造部門：

一般・産業廃棄物収集運搬業/リサイクル事業（廃プラスチック等の再生原料製造、プラスチック製品製造、固体燃料（RPF等）の製造）/下水道等管渠カメラ調査・補修業務/水路・水槽等清掃業務/道路維持管理作業/河川堤防除草等維持管理作業/建設業

Activity 2

製品試験

リサイクル製品製造においては、品質確保に向けた各種試験を行っています。リバースパレットでは、強い衝撃や曲げに耐えられるかどうかの試験設備も自社に設置しており、定期的に試験を行うことで、スピード感を持った品質確保に努めています。



GLOBAL G.A.P.
GGN:4056186753588

GLOBAL G.A.P.とは

食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証で農林水産省が導入を推奨する農業生産工程管理手法の一つです。「適切な農場管理の基準」であり、農薬の管理、肥料の管理、水の管理、土の管理といった幅広い分野で明確な基準が定められています。それらの基準は全部で200項目以上の項目数になります。

GOVERNANCE ガバナンス

2 内部監査の実施

ISO14001・9001、GLOBALG.A.P.認証など、各種マネジメントシステムの機能性を向上させていくために、年に1回内部監査を実施しています。

各事業部ごとに内部監査チェックリストを準備し、マネジメントシステムの要求事項と前回の監査時に上がった指摘事項の改善状況を確認しています。また、マネジメントシステム事務局の監査も行い、システム全体の評価も行うことで、現在の当社が取り巻く環境にあった、独自のマネジメントスタイルへ更新しています。長年取り組んでいることで、マネジメントシステムの定着はできており、不適合事項はありません。改善の目的の観察事項を積極的に挙げていくことで、より良い運用を目指していきます。



3 創業50周年記念誌の制作

2022年、当社は創業50年を迎えました。この節目にこれまでの歴史を振り返り、長きに渡り富山環境整備を支えてくださったステークホルダーの皆様への感謝の気持ちと、当社のスピリットや想いも共に未来へ繋げていくために、創業50周年の記念誌を制作しました。

今回制作したのは、社員向けの「富山環境整備 History Book」と地域住民やお客様、協力会社様など広くステークホルダーの皆様向けの「富山環境整備のすべて」の2冊です。プロジェクトチームを編成し、代表をはじめ古参社員や地域住民、お客様など約30名にインタビューを行い、歴史を紐解いていきました。また、エピソードだけでなく、今の富山環境整備もしっかり記録として残すために、約10日間をかけて各事業の写真撮影も行いました。完成した社史はステークホルダーの皆様の手へ渡り、多くのご感想をいただきました。半世紀の歴史を大きな支えに、今後も富山環境整備はスタッフ一丸となって持続可能な社会の実現へ向けて邁進していきます。



VOICE 社員の感想

- 先人の方々が創り上げてきた会社の重みを忘れず、気持ちも新たに頑張っていきたい
- 経営理念である「感謝・共生・公益」の原点がここにあるように感じた
- 地域の方々のご理解とご協力があって今があることがよくわかった
- この会社に入社してよかったと思った

4 会社の情報発信

当社の様々な情報をステークホルダーのみなさまにお届けし、よりコミュニケーションを深めていくために、複数のメディアで情報発信しています。是非各種媒体で、当社の“今”をご覧ください。

富山環境整備のコミュニケーションツール

会社案内



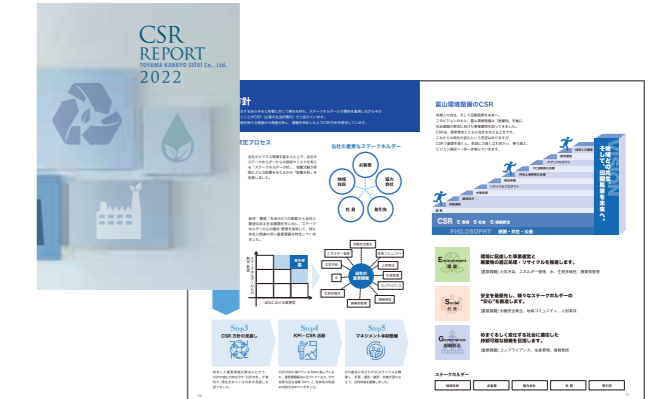
Web サイト



会社見学コンテンツ



CSR レポート



社内報「美登里とともに」



TV-CM



情報の網羅性

公開範囲

MATERIAL BALANCE マテリアルバランス

INPUT

エネルギー等

電気	39,251,568kWh
A重油	1,034,500ℓ
廃油	709,000ℓ
軽油	2,416,000ℓ
灯油	11,856ℓ
ガソリン	10,800ℓ
水	17,500m ³

原材料等

消石灰	3,109,460ℓ
活性炭	57,600ℓ
キレート	252,000ℓ
アンモニア	33,880m ³
二酸化炭素ガス	54,635m ³
農薬(粉末)	128kg
農薬(液体)	863ℓ
肥料(粉末)	2,800kg
肥料(液体)	1671ℓ
培土	194,099kg

廃棄物受入

産業廃棄物	305,391.7 t
燃え殻	5,475.6t
汚泥	32,149.1t
廃油	997.4t
廃酸	0.3t
廃アルカリ	4.9t
廃プラスチック類	193,859.9t
紙くず	1,008.7t
木くず	922.6t
動植物性残さ	68.5t
金属くず	1,265.2t
ガラスくず等	0.5t
鋳さい	300.0t
がれき類	25,859.6t
ばいじん	21,858.9t
ゴムくず	14,699.7t
繊維くず	6,860.9t
13号廃棄物	60.1t

特別管理産業廃棄物	2,504.8 t
引火性廃油	0.0t
強酸	0.0t
強アルカリ	0.0t
感染性廃棄物	1,099.2t
廃石綿等	330.2t
鋳さい(有害)	0.0t
燃え殻(有害)	2.8t
廃油(有害)	0.0t
汚泥(有害)	101.9t
廃酸(有害)	0.0t
廃アルカリ(有害)	0.0t
ばいじん(有害)	109.0t
廃PCB等	349.4t
PCB汚染物	512.3t
一般廃棄物	28,876.6 t
その他プラスチック	28,219.8t
ペットボトル	656.8t

事業活動

廃棄物処理事業



リサイクル



アグリプロダクト



研究開発



OUTPUT

CO₂排出量※ 31,838t-CO₂

リサイクル 64,412.8 t

当社リサイクル 45,193.6 t

外部委託 4,008.4 t

売却 15,210.8 t

最終処分

当社最終処分 139,129.0 t

製品生産

リバースペレット 12,690.0 t

リバースペレット 8,140.0t

リバースボード 42.0t

トマト 319.0t

トルコキキョウ 204,000本

いちご 6.5t

米 20.0t

その他野菜 1.0t

その他食品製品 5.5t

廃棄物収集運搬量

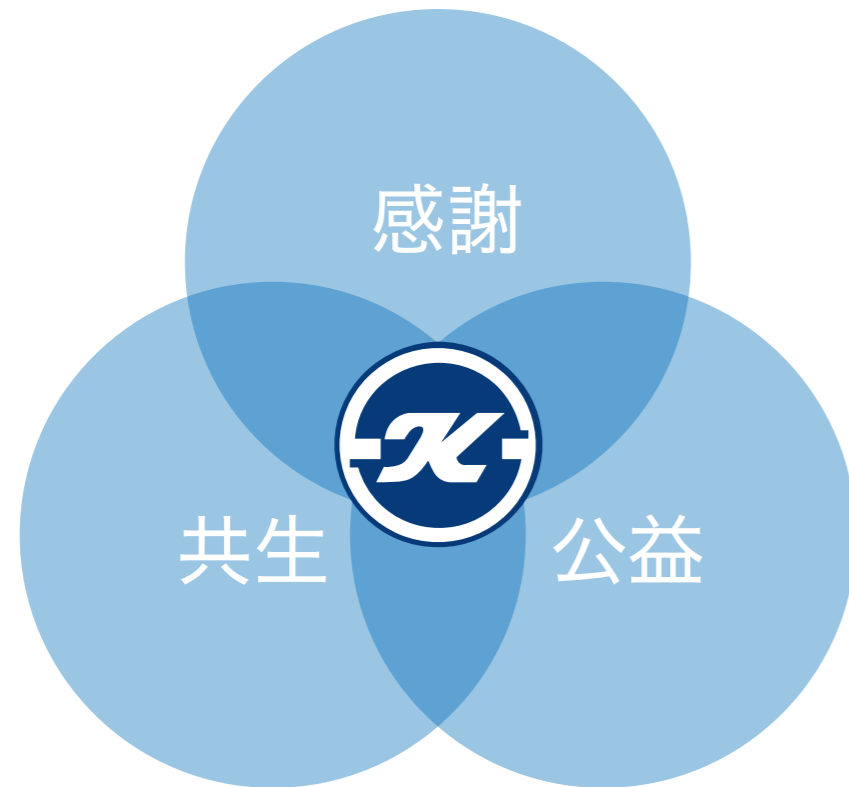


産業廃棄物	26,385.3t
特別管理産業廃棄物	492.1t

※エネルギー等起源のCO₂排出量を対象とし、「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」にて公表されている情報で算定

OUR PHILOSOPHY

経営理念



感謝

今日あるのは、先人や会社に係る全ての関係者の皆様のおかげである。これを基に感謝の心と高い徳性を持ち企業活動を行う。

共生

共に相手を認め、互いを必要とし、共に生かし合う関係をもって、地域社会とともに繁栄し人々の幸福のために行動する。

公益

我々が行う事業活動は、国家・国益・社会益のために行い、新しい公共の利益を創造する。

OUR VISION

ビジョン

地域との共生、 そして田園風景を未来へ

産業活動で廃棄される物から高度な技術で取り出された資源は、加工を施すことで原材料へ生まれ変わり、もう一度社会に還元され新しい製品として人々の手に渡っていく。

資源がもっとたくさんの製品に活用される幅を広げるために、新しい技術開発に日々勤しむ姿もある。

地域のごみを処理する焼却施設は、地域エネルギーを作り出す拠点という役割も担い、周辺の家へ電気や熱を供給している。家庭だけでなく、ビニールハウスや農業施設にもエネルギーは供給され、そこでは化学物質に頼らず、自然界のチカラで美味しい作物が育まれ、その恵みをいただく。

周辺に暮らす老若男女がみな「地域人」として田畑を営み、時には地域で助け合い、そうした人と人との豊かな交流が深まることで、自然と調和した生活を送ることができる。

あらゆるモノの地産地消、あらゆるヒトの地域交流が生まれ、回り続けるこの地には、たくさんの人が集まり、優しさと笑顔があふれている。

そんな、新しくもあり、どこか懐かしい地域の田園風景を、私たちは大切に、未来へ繋いでいきたい。

富山環境整備は、創業から長年培ってきた廃棄物の適正処理・リサイクル技術と、令和時代を先導する最先端技術を駆使して徹底的なリサイクルを推進し、異業種や異業界連携も含めたあらゆる形の「資源循環システム」を追求していきます。これを通じて、様々な課題の解決を図るとともに、持続可能な社会への発展に挑戦し続けます。

そして、これからも北陸・富山の地域社会の一員として皆様と共に地域の営みを行い、地域との共生を目指していきます。